

令和7年9月30日

保護者様

横浜市立深谷小学校  
校長 杉田 仁

## 令和7年度 全国学力・学習状況調査（4月実施）調査結果の概要

4月17日に、全国の小学校6年生対象に、学力・学習状況調査（本年度は国語・算数・理科の3教科と、児童質問）が実施されました。調査は、5年生の学習内容で行われました。

### 1 教科学習状況調査の分析

#### 【国語】

	平均正答率 (%)
横浜市立深谷小学校	64.0
横浜市（公立）	67.0
神奈川県（公立）	66.0
全国（公立）	66.8

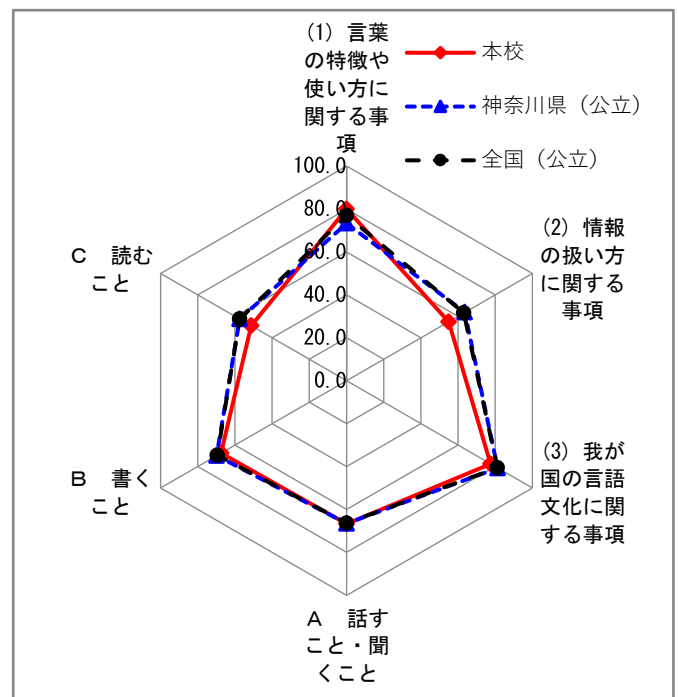
#### 〈国語の傾向と今後の指導について〉

国語の平均正答率は、本校は14問中9.0問、全国は9.4問でした。

領域別にみると、「言葉の特徴や使い方」に関する問題で、全国平均を上回る正答率を示しました。これは、語彙や文法、文化的背景に関する知識がしっかりと定着していることを示しています。一方で、「情報の扱い方」や「読むこと」に関する問題では、全国平均を下回る結果となっており、情報の整理や読解力の面で課題が見られました。

評価観点別にみると、「知識・技能」の観点では、基本的な語彙や文法の理解に一定の力があり、正答率も比較的高めであることから、基礎的な国語力は身につけていると考えられます。一方で、「思考・判断・表現」の観点では、文章の読解や記述による表現力に課題が見られました。

今後の指導では、文章の構造理解や要点把握に関する力や、より深い理解や自分の考えを適切に表現する力の育成をするために、言葉に着目した読み取りや段落ごとの要点整理、要約活動などをして読解力を高めていきます。また、意見文の作成や児童同士の対話を取り入れること、読書活動を通して多様な文章に触れる読書活動も、取り入れていきます。



## 【算数】

	平均正答率 (%)
横浜市立深谷小学校	57.0
横浜市 (公立)	60.0
神奈川県 (公立)	59.0
全国 (公立)	58.0

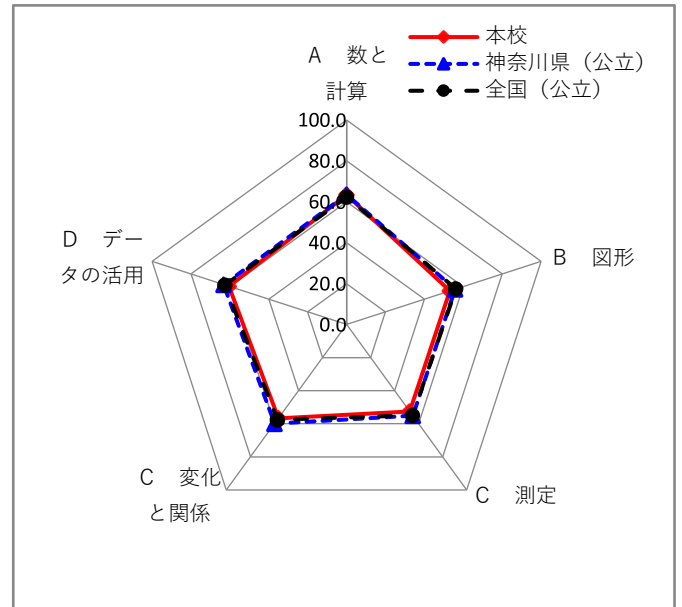
＜算数の傾向と今後の指導について＞

算数の平均正答数は、本校は 16 問中 9.1 問、全国は 9.3 問でした。

領域別にみると、「数と計算」および「データの活用」の領域で全国平均と同等の成果を上げており、基本的な計算力や統計的な読み取り力は安定していました。しかし、「図形」や「測定」の領域では全国平均をやや下回っており、図形の要素をとらえて考える力や単位の理解に課題があると考えられます。

評価観点別にみると、「知識・技能」の観点では、計算や図形の基本的な理解は安定しており、選択式の問題では高い正答率を示している、基礎的な算数力は十分に備わっていると分かりました。しかし、「思考・判断・表現」の観点では、文章題や記述式問題において正答率が下がる傾向があり、論理的に考え、説明する力の育成に課題があることが分かりました。

構成や展開図の操作、立体の模型づくりなど、実際に手を動かす活動や、身近な場面での単位の活用（長さ・重さ・時間など）を通じて、具体的な体験を伴った学習を取り入れていきます。また、考え方を言葉や図で説明する活動や、友達との話し合いを通じて多様な視点に触れる機会を設けるようにしていきます。



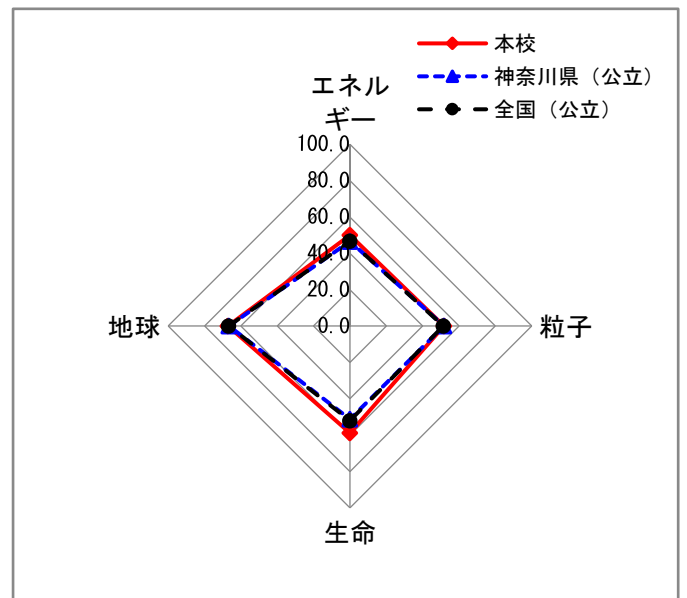
## 【理科】

	平均正答率 (%)
横浜市立深谷小学校	59.0
横浜市 (公立)	57.0
神奈川県 (公立)	57.0
全国 (公立)	57.1

＜理科の傾向と今後の指導について＞

算数の平均正答数は、本校は 16 問中 10.1 問、全国は 9.7 問でした。

領域別にみると、「生命」領域において、深谷小学校の児童は全国平均を上回る正



答率を示しました。これは、自然現象や生物の仕組みに対する理解が深く、観察や実験を通じた学習が効果的だったことを示しています。一方で、「地球」や「粒子」の領域では全国平均と同程度の結果ですが課題や結果を基に考察することが苦手であることが分かりました。

評価観点別にみると、「知識・技能」の観点では、自然現象や基本的な科学知識の理解は良好であり、選択式問題では正答率が高いため、基礎的な理科知識は定着していると考えられます。一方で、「思考・判断・表現」の観点では、実験結果の考察や理由の説明など、記述力を要する問題で正答率が低く、探究的な学習活動の充実が求められることが分かりました。結果だけでなく「なぜそうなるか」を問い返す活動や、複数の条件を変えて比較する実験をしたり、図や表、簡易な装置図などを使って現象を整理・再現する活動をしたりしていきます。そして、観察記録をもとに自分の言葉で説明する機会を設け、友達と考えを共有する場を通じて多様な視点に触れるようにしていきます。

## 2 児童質問紙調査

### <学習について>

児童は ICT 機器を活用した学習に対して前向きな姿勢を示しており、文章作成や情報収集、友達との協働学習などに自信をもっている様子が見られました。また、学習塾や家庭教師による支援を受けている児童も多く、学習意欲の高さがうかがえました。

一方で、読書時間や家庭での学習時間が少ない傾向があり、学習習慣の定着に課題が見られました。また、ICT 機器を使った情報整理やプレゼンテーション、意見を発表するなどの表現力については、さらなる育成が必要であることが分かりました。他にも、学習内容の理解や自分のペースでの学習進行に不安を感じている児童も一定数いるため、個別の支援を丁寧に行っていきます。

### <家庭・地域での過ごし方について>

児童は、毎日朝食をとる、同じ時刻に起きるなど、規則正しい生活習慣が身につけており、健康意識の高さがうかがえました。学校生活を楽しいと感じている児童も多く、友人関係や学校への満足度も高い傾向が見られました。

一方で、毎日同じ時刻に就寝する習慣が定着していない児童が多く、生活リズムの改善が必要であることが分かりました。また、困りごとや不安を先生に相談できない児童も一定数いるので、さらに安心して話せる環境づくりに努めていきます。新聞や本に触れる機会が少ない児童も見受けられ、読書活動の充実も目指します。

また、地域の大人との関わりが少ない児童や自然体験や観察活動の機会が限られている児童も見られましたが、自然の中で遊んだり、地域の大人と関わる体験活

動を通じて、地域社会とのつながりをもつ機会を得たりして、地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える児童も多く、地域貢献への意識が育まれていることがうかがえました。

<自身のことについて>

自分にはよいところがあると感じており、先生がそれを認めてくれていると実感している児童も多く、自己肯定感が育まれている様子が見られました。また、将来の夢や目標をもち、人の役に立ちたいと考えていて、前向きな姿勢や社会性が育まれていることがうかがえました。

一方で、自分と異なる意見について考えることに楽しさを感じていない児童も一定数みられました。今後は、多様な価値観への理解を深める取組をさらに進めていきます。

今後も、学校・家庭・地域が連携しながら、児童一人ひとりの成長を支えてまいります。保護者の皆様には、引き続き温かいご支援とご協力をお願い申し上げます。